

リサール 産 酵

飯川社長が講演

リサール産酵(埼玉 県さいたま市北区宮原町 2の1-0の12)の飯川 雅丈社長が、6月24日に 燕三条地場産業センター で開催された「平成27年 度肥料農薬情報交換会」

(主催 新潟県農業士会) の講師として招かれ、土 じゅくりこそ農業の基本 『カルスNCC-R』生の 有機物を活かす土づく り』と題した講演を行っ た。

法を發表した。 それによると、粗大有 機物の利用による土壤改 良の目的は、①生物的改 良(土壤微生物のバラン スを整える)のために、 堆肥や微生物資材などを 投入する②化学的改良 (酸度調整・塩基置換容 量の増大)のために、微

生の有機物活かす土づくり

カルスNCC-Rが著効

ら、作物づくりを同時に

行うことが特徴で、全国 の農家から生産性が向上 すると高い評価を得てい

る。新潟県内で「カルス 命名したことを紹介。そ

ら、作物づくりを同時に 社名について、先代社長 量が要素や各種資材など

新潟県農業士会(渡部 允循会長)は、毎年この

時期に、各資材メーカー と協力して勉強会を開 催。今回は、肥料・農薬

メーカー44社が地場産業 センター大ホールに出 展。農機メーカーはクボ

このことが「カルス農 性菌条件下でも活動ので ける微生物を主体とした

を、ヤッタ。 講演は渡部会長の挨拶

の後、青年農業士会会員 100名余りを前に、約 1時間行われた。

まず、リサールという 量の増大)のために、微

これを、粗大有機物 (緑肥・作物残渣・畜糞 に、健全な生活は成り立

を、ヤッタ。 講演は渡部会長の挨拶

の後、青年農業士会会員 100名余りを前に、約 1時間行われた。

まず、リサールという 量の増大)のために、微

これを、粗大有機物 (緑肥・作物残渣・畜糞 に、健全な生活は成り立

を、ヤッタ。 講演は渡部会長の挨拶

の後、青年農業士会会員 100名余りを前に、約 1時間行われた。

まず、リサールという 量の増大)のために、微

これを、粗大有機物 (緑肥・作物残渣・畜糞 に、健全な生活は成り立



100名余りの会員を前に講演する、リサール産酵の飯川社長

んだワラなどの浮きを軽 減②夏場のガス湧きを抑 制③品質の向上や増収一 などとした良質米の生産 につながる。また、畑作 ・果樹などの農産物は、 糖度が大きく向上した実 例が報告されている。 時間が限られているた め、すべてを發表できな いが、興味のある方は、 後で当社アースにお出で 頂きたい。

今年「国際土壤デー (12月5日)」および 「国際土壤年」の開始の 年である。そのメッセー ジである健全な土壤なし に、健全な生活は成り立 たないということを、肝 に銘じて、よりよい土づく りを目標していきたいと 発表された。 講演会後、各アースに おいて意見交換が行われ 終了した。